

1. 評価報告概要表

作成日 平成19年10月4日

【評価実施概要】

事業所番号	1173200906
法人名	株式会社 彩香らんど
事業所名	グループホーム彩香らんど「田舎の家」
所在地	〒355-0323 埼玉県比企郡小川町下里706-1 (電話) 0493-71-3117

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成19年9月28日

【情報提供票より】(平成19年8月29日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年1月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 4人, 非常勤 6人, 常勤換算 4.3人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	2階建ての	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	実費	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	500 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(8月29日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	2名	要介護2		3名	
要介護3	2名	要介護4		1名	
要介護5	1名	要支援2		0名	
年齢	平均 84.11歳	最低	72歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人順浩会野崎医院・医療法人いとう歯科クリニック
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは春には新緑、秋には花々の他に収穫前の木の実などが窓から見え、四季の移り変わりが感じられる自然豊かな閑静な所にある。1階にはデイサービスが併設されており、行事やイベント実施の際は、相互で協力し合いサービスの向上に役立っている。特に「田舎の家」秋祭りは、利用者、家族、職員の他に大勢の地域の方々に参加し、多種のイベントや模擬店もあり、輝き、感動、コミュニケーションの場となっている。また利用者の意見を尊重し「無理は絶対にしない」を日々の実践に取り組んでいることからその人らしい安心した生活が出来ている。今後は外部評価などを大いに活用することにより、更なるサービスの質の向上が期待できるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価については職員全員で話し合いをした。改善課題は話し合いをはじめ、勉強会や講習会を行い、日々のケアに活かせるよう努力している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員全員でミーティング時に自己評価を実施している。項目ごとに日々のサービスを振り返りながら、評価のねらいを中心に話し合うことによって現状と課題を明らかにし、サービスの質の向上につなげている。改善計画の作成も前向きな姿勢で臨んでいる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議では外部評価の結果を配付したり、利用者の状況やサービスの実際、行事等の実施報告をし、その上で毎回テーマを決め意見を出してもらい、日々のサービスの向上に活かす努力をしている。運営推進会議には、利用者の家族、自治会長、老人会長の他に行政の担当者の出席もある。平日頃より質問や相談等で積極的に市役所へ出向き、報告したりアドバイスを受け、良い関係を築き、サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>殆どの家族には来訪時に報告し、変化のあった時はそのつど電話連絡をしている。事情があり来訪されない場合は、手紙と共に、ホームだより、写真、行事予定などを送付したり、月に1回家庭訪問したりして報告している。また家族会や運営推進会議でも家族から意見が出され、それを職員会議にかけ早期解決を心掛け運営への反映としている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に入会し機会にも出席している。月1回の道路清掃や運動会には地域住民として参加している。また近隣の幼稚園児の訪問もある。ホームの秋祭りは、大勢の地域の方々の参加(約250名)もあり、年2回の避難訓練には自治会や老人会からの参加もあり、ホームの利用者が地域の人々と交流したり連携をとっている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとして何が大切かを職員同士で考え、事業所独自の理念を作り上げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所独自の新しい理念は誰もが見えるよう居間に掲げ、月1回の会議では理念にもとづいたケアの実践に向かって意識の統一を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入会し、会合や月一回の道路清掃や地域の運動会も地域住民として参加している。ホームの行事も地域の方々に伝えるので、避難訓練やホームの秋祭りには、区長、老人会長、住民等大勢の地域住民が参加している。また近隣の幼稚園の訪問もある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価は全職員でサービスの質の確保に活かしていこうと、項目ごとに振り返り、課題を明確にしている。外部評価の結果、要改善となった部分は改善に向け実践している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には家族、自治会長、老人会長、行政の担当職員等の参加となっている。会議では利用者の状況報告、行事等の報告をしている。また、会議の結果をまとめ、運営推進会議のメンバー全員に配っている。毎回テーマを決め意見を出してもらい、日々のサービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所にはホーム運営上の理解や支援が必要な為、担当窓口へは常日頃より質問や相談等へ出向き、関係づくりを積極的に行い、取り組み状況を報告したりアドバイスも貰ったりしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	殆どの家族が来訪されるので面会時に報告している。体調の変化や、けが等の時はそのつど電話連絡をしている。面会に来られない方には電話で報告したり、行事の予定やホーム便り、写真等は手紙と共に送付している。月1回家庭訪問して報告している方もある。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	訪問時や電話時は快く接し常に問いかけや質問をし、どんな意見でも出してもらえる雰囲気作りに努めている。また家族会や運営推進会議等でも意見、不満、苦情の発言の場がある。出された意見や問題は会議に図り早期解決を心掛け報告して、質の向上を目指す取り組みをしている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は行っていない。少人数のユニットの為顔馴染の関係は出来ている。新しい職員が入った時は既存の職員が間に入り徐々に馴染の関係を築き大きな変化を無くす工夫をしている。家族へは訪問時等にそのつど紹介したり行事等に参加してもらいコミュニケーションを図っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修は全職員を対象に経験や習熟度の段階に応じて研修に参加出来るよう年間計画の中に入れていく。社内研修も年2回程度行っている。管理者は講師としての学習もする。研修受講者は必ず報告書を作成し誰でも閲覧できる仕組みを作っている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域にグループホームが6施設あるがネットワークづくりは出来ていない。運営推進会議でもネットワークづくりが取り上げられ、早急にネットワークをつくることを検討中である。		ネットワーク構築を図り、日々のサービスや職員の育成に役立つよう、形式的ではなく実践的な交流や連携を取り事業者同士協働しながら質の向上に取り組むことを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>家族に事業所を見学に来てもらったり、職員の家庭訪問、面会等で関係を作り、職員会議で利用者が一番良い対応方法を話し合い、安定した利用が出来るよう工夫している。また入所当初は家族と相談し食事介助に来られた方もいる。居室には利用者の大切な品物や写真、タンス等も持ち込むことができ、利用者が精神的に安定して生活できるよう工夫している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>一緒に何かをしたり話しをすることにより、本人の気持ちや得意分野がわかるので生活に取り入れながら、共感したり学んだりして支えあう関係を築いている。また関わりの中で同じ目線で間を置いて言葉を待つという対応を心掛けている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>契約時には本人及び家族から希望・意向等を細かく聞いたり、記入してもらい、その人らしい暮らし方が出来るよう支援している。また入居後は日々の生活の会話や行動等から思いや意向を把握し、家族と相談しながら本人が最良の暮らしになるよう検討している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>家族とは来訪時、また入居者には日頃の関わりの中で意見を聞き、月1回の職員会議で介護計画の見直しを行っている。また代表者会議へも課題を提供し、たくさん意見を聞くようにしている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的な期間ごとあるいは変化が生じた場合は見直し、利用者の実情に応じた介護計画を作成している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人及び家族の状況に応じて、通院や送迎等必要な支援には柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医療機関は契約時に家族に説明し、同意を得ている。希望するかかりつけ医があれば家族と協力し合いながら通院介助をしている。家族通院の場合もあるが通院後は報告をしてもらっている。訪問診療を受けることもある。受診結果は受診記録を残し、職員が情報を共有し家族にも伝えている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居契約時に、重度化した場合等については説明している。本人及び家族の意向をふまへ方向性を話し合っている。スタッフ会議にて方針を共有した上で最大限のケアを提供できるよう支援している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	守秘義務の徹底等は採用時の研修で行っている。記録等の個人情報は目につく所に置いていない。申し送りの際には個人の名前を出さずイニシャルで話すようにしている。介助時の声掛けは小声でさりげなく行っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の生活の流れはあるが起床から就床まで何事も本人の状態に合わせ無理強いをしない生活となっている。本人の意向や希望も利用者が表出しやすい様に少し間をおいて待ったり、表情を観察したり筆談して支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の個々の力やその日の状態に合わせ食事を分けたり、配膳や後片付け、おしぼりたみを職員と一緒にしている。食事は2列のテーブルに分かれ、職員も同じテーブルで介助の必要な利用者一人が回り、一人と一緒に食べテレビや会話などで楽しい雰囲気づくりをしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜日は休息の日とし入浴は無いが、それ以外の曜日は毎日入浴が可能である。入浴時間は夕方希望に合わせた入浴も時には可能となっている。入浴の嫌いな方には体調を見ながら言葉かけや対応の工夫をして、その方に合った入浴を支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴や得意分野等は家族や入居者の生活の中から聞き把握している。一人ひとりの気持ちに沿って洗濯物たたみ、誕生会、季節の行事等を大切に、支援する側される側でなく、職員と利用者が一緒に楽しく取り組んでいる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩は週2回位、家族対応での外出はその人によって異なるが月1回位行っている。デイサービスの車を利用して季節の花見に行ったり、外食をしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	法人全体の中に身体拘束委員会がある。知識の修得と理解向上の為に研修も行っている。1階の玄関、2階の階段も職員から目の届く所にあり鍵をかけていない。また2階の階段の戸には鈴を吊り下げ、開閉時には音が鳴るようにしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練を行っている。火災を想定してシナリオを作り、昼間、夜間に訓練を行っている。また、災害対策のマニュアルがあり、連絡網は職員、家族に配布している。運営推進会議で地域の代表の方に、災害時の協力を呼びかけ、また、消防署等の協力体制がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養や水分摂取を記録し、職員間で把握している。食事形態は体調に合わせ工夫し、数多くの食品を取り入れる様に献立している。医師の指示で食事制限のある人には盛り付けにより量を調整している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下にはボランティアによる季節の写真、カレンダーは手作り、テーブルにはかわいい花、南側の日当たりのよい窓にはブラインドが施され、居心地よく過ごせるよう工夫がされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に家族と充分検討してその人に合わせた居室づくりをしている。自宅よりタンス、椅子、布団、人形、写真等を持参している人もいたり、病気の症状や利用者の性格、好みに合わせてた居室作りを支援している。		